



真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

## 三條別院に想う

自坊が別院のすぐ裏手にあり、松葉幼稚園に通った私にとって「ぼさま」は物心ついたころからなじみ深い場所でした。恩徳讃をきちんと覚えたのはここでしたし、祖父が園歌の「みんな仲良く元気です」という部分を気に入って、しばしば法話の話題にしていました。

さて、本願寺派に属する者としては、もう一つの「三條別院」について触れないわけにはいきません。またご記憶の方が多いと思いますが、現在の鍛冶道場の場所には、独特のコンクリート造の建物で知られた本願寺派の三條(西)別院がありました。元禄十六年(一七〇三)創建の東別院から大きく時代を下って、西別院の建設は天保三年(一八三二)に始まりました。別院設置ならば本来の目的は地方の法義取締りであったはずで、『三條市史』には、文政十一年(一八二八)三條地震の犠牲者の永代供養を主目的として、とありますが、やや引っかかるところのある説明です。ある郷土史研究家によると、東別院の賑わいを喜んだ三條町の人々が、もう一つの別院の「誘致」を本願寺派側以上に積極的に主導したということ。本山へのお参りが容易にできない時代において、別院という存在のもっていた物心両面での求心力を推し

量ることができません。その後両別院は町の発展また大火などの災難とともに経験してきましたが、西別院は残念ながら平成九年、与板の現・新潟別院へ統合されて役目を終えました。

私が自坊に戻ってから十年ほどになります。東別院には花まつりなど市仏教会の行事で世話になっていますが、町の真ん中に仏教行事を行える場がこうして存在し続けているのは大変ありがたいことです。別院の法座や講演の際に伺うと、運営や講師を若手の方々が務める機会がずいぶん多い印象を受けます。多種多様なイベント企画を行いながらも、お寺としての本分はなおざりにしていない、良い活気が生み出されているように感じます。これからも大谷派門徒だけでなく、多くの人たちが仏法に思いを向けるきっかけの場であってほしいと勝手ながら願っています。

自坊のご門徒がたと話していると、どうしても『お西』と『お東』どっちが本家? というのが関心事であるようですが、「まあ、どちらも同じ親鸞様の教えですから」と受け流して、せっかくの徒歩五分のご近所、また時々潜り込ませていただきます。

大溪 太郎氏(浄土真宗本願寺派正覚寺衆徒)

○次回の「三條別院に想う」は、

中原 一成氏(第十六組福成寺住職)より

執筆いただきます。

▲大溪氏は本文にもある通り、別院から「徒歩五分」の浄土真宗本願寺派正覚寺の衆徒で、「西洋近代史」と「ときどき」真宗史」を専門とされ、新潟親鸞学会でも活躍されています。

春彼岸会報告「やっちく二人会がやってきた」

春彼岸に先立つ三月十一日、勿忘(わすれな)の鐘を打ちました。一年一年、確実に年月は過ぎていきます。三月十七日から十九日まで春彼岸会が行われ、十七日には速夜法要、その後、本多智之氏(第十八組永傳寺)による法話がありました。十八日は永代経総経と速夜法要、十九日は日中法要が勤められました。十八日から十九日は、石川県浄願寺の竹原了珠氏と愛知県名古屋市のアマチュア嘶家・真宗門徒の南立亭千笑(なんたつていせんしょう)氏(本名・八木千春氏)による「やっちく二人会」に、三座お話しいただきました。

三條別院では、お取り越し奉讃会主催で「ぼさま寄席」を開催し、プロの嘶家である三遊亭金馬師匠が堂内を爆笑の渦に巻き込んでいます。一方、竹原氏はしきりに南立亭千笑氏は、「アマチュア」なので、緊張しないように会場の雰囲気づくりを大切にしてください(笑)といい、不思議な空気を生んでいました。不思議なのは、普通の「真宗門徒」が落語をし、僧侶がそれを通して法話をし、その場を参詣者が助けていく(聞く)という形が新しいからなのです。

過疎問題の研修会で、中外日報の編集局長から本願寺派の宗務総長が「変化に対応できない僧侶は時代に取り残されていくと予見されている。寺院も僧侶も選ばれ、あるいは捨てられるであろう時代の到来だ」と述べたことを知りましたが、竹原氏は「寺までが競争社会になってしまったら、疲れてお寺に来る方の居場所がなくなってしまう。競争とは違う形で、かつ魅力的な形の法座を開きたい」と語っていました。やっちゃん二人会の場合は「法話と落語」ですが、「門徒と僧侶が協力して法座をつくる」という新しい時代の仏教の形を提示しているように感じました。(斎木)



【竹原氏 (右上)、南立亭千笑氏 (右下)、献酒やっちゃん (左上)、本多氏 (左下)】

怪異譚海坊主が再公演されました

三月二十五日に「妻有演劇祭」(十日町市市民会館ホールにて開催)で、昨年のお取り越し報恩講(十一月六日)に創作された『怪異譚海坊主(かいたんうみぼうず)』が再公演されました。本堂とは異なり舞台上での演出ということで、僧侶のエキストラは出演しませんでした。舞台独特の大道具を駆使し、波や風、雷などを肉体の動きで表現した演出は物語の生々しさと報恩講実行委員会教化部会で脚本作成の際にこだわった「人間の業」を効果的に表現していました。(森尻)



【衣装を身にまとう劇団☆ASK】

三条別院公開講座

既にご案内の通り、本年も公開講座を開催します。

◆日時 五月十四日(日)午後二時

◆会場 三条別院 本堂 ◆聴講無料

◆講師 ケネス・タナカ氏

(武蔵野大学教授・日本仏教心理学会会長)

◆講題 「伸びるアメリカ仏教と心理学との協力

—日本にも到来?—」



子ども奉仕団に向けレイコップ・ダイソン奉仕団開催

来る子ども奉仕団に向け、布団の清掃が緊急課題となり、児連を中心とした子ども奉仕団スタッフがレイコップとダイソンを使用して布団清掃を行いました。清掃した布団は実に八十枚でした!



宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会を開いております。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 四月二十八日(金)午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

濱松 智弘氏 (佐渡組勝廣寺) 【第十五章】

◆今後の講師一覧

テーマ 『歎異抄』に聞く

五月 中原 龍氏(第十六組福成寺)【第十六章】



六月 安原陽二氏(第十二組安浄寺)【第十七章】  
▲昨年一月より、「歎異抄」に聞く「をアーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいています。三月は木村邦和氏で、第十四章の「自力滅罪」の異義について罪を滅することと転ずること、加持祈禱的な仏教のあり方についてでした。

### 定例法話会

毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。**なお、四月十三日は蘭如上人二十五回忌御**

**正當にあたり、十二日午後一時三十分から速夜法要、十三日午前十時から日中法要を勤めます。**

◆日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く  
午後二時三十分より(一時間程度)

◆場所 三条別院 旧御堂

◆講師

二月～四月 武樋和嘉子氏

(第十五組浄覚寺)

「おもいたつころのおころとき」

五月～七月 永寶晴香氏(第十組浄敬寺)

五月「遇つべきひと」

六月「遇つべきこと」

七月「聞くこと、歩むこと」

▲二月から四月は、女性研修会スタッフや御遠慮広報部員などを勤めて「られた武樋和嘉子氏お話しいただきます。

### その他の講座案内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能)

〔月一回、午後六時～八時〕

二月二十一日(火)〔済〕、三月二十一日(火)〔済〕

四月十八日(火)、五月十六(火) 六月二十日(火)  
講習内容 真宗大谷派勸行集(赤本)

講師 長田 暢氏(第十六組 善興寺)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)

### 随時募集中

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講(清掃講)

三条別院庭講は本年も様々な行事を予定しております。

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか?

ぜひ、お気軽にご参加ください。

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている(門徒から

はじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会

です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節

ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(絵像)をお迎えして、聞法会を開催

しませんか?輪番と随一名でお勤めと法話を行います。

集会所や門徒宅等で開催できますので、会場や時間など

はご相談ください。



### 【注意】三条別院の名前を語る宗教勧誘

三月に三條市内の門徒宅に「三條別院の認可を得た新しい団体である」という女性二人組の宗教勧誘があつたと、第十五組の寺院から報告がありました。当別院ではそのような勧誘は一切行っておりませんので、ご注意ください。ようお願い申し上げます。

### ◆◆編集後記◆◆

桜の花も、もう蕾になり花見もできそうです。雪も解け別院も境内地の土もすっかり見えるようになり、幼稚園の工事も日に日に進んでいます。梵鐘を朝打ちに行くところから様子が見えます。今はコンクリートを流し込んで基礎の部分が出来つつあります。

そのなかで最近考えるのが、良くない事というのは続くということ。年が明けてからなかなか、いい事がなく私の内面というのを見ていかなければならないと思うのです。少し暖かくなってきたのもあり浮足だつていたのかと思います。こういう時に昔の人は上手いことを言つたものです。「二度あることは三度ある」と。自分にとって良い事だとそんなに目を向けずに通り過ぎてしまうものです。自分の内面を見ていくというのは、目をそむけたくなるのです。自分の内面を見るといふのは本当に難しいものです。私の中で今年の一字は「躍」なので沈んだ分だけ、はねあがりたいたいです。今はその為の自分を見つめて、起き上がる準備期間だと思えます。

今年は私にとつて色んな意味で勝負の年です。私が三十歳を迎える年でもあるからです。(藤井)